

平成27年12月5日(土)

老球の細道185

ああ！バスケットボール

会津バスケットボール協会 室井 富仁

長年高校の体育教員をやってきて改めて思うのは、体育授業においてバスケットボールの人気のいかに高かったかということである。校内球技大会においても、最も盛り上がったのはバスケットボールのクラス対抗だった。プレーする選手も応援するクラスメートも担任も一体になって燃えていた。バスケットボールは人気があり、偉大なスポーツだとずっと自負していたのに、11月7日の朝日新聞の記事には意外な結果が掲載されていた。

色々な年齢層の2119人にアンケートをとった。観戦するなら団体競技と個人競技どっちか？この勝負は65%の支持を集めた「団体競技」に軍配が上がった。その団体競技の中でどの種目が特に好きかという質問では、バスケットボールは7位で、たった33名の人しか支持していなかった。ちなみに団体競技の人気1位は「野球」550人、2位が「サッカー・フットサル」354人、3位が「ラグビー」139人、4位が「駅伝」118人、5位が「バレーボール」91人、6位が「アメリカンフットボール」43人だった。

この記事をずっと気にかけていたら、12月4日の朝日新聞に、さらに私を傷つける記事が掲載された。鈴木大地スポーツ庁長官が、日本の各競技団体の強化担当者に「通信簿」を提示したという。通信簿とは、2日、東京都内であったJOC(日本オリンピック委員会)のコーチ会議で、各競技が過去の五輪で取ったメダル数の一覧表のことである。

それによると「御四家」と呼ばれる「柔道、体操、レスリング、水泳」が、日本が過去に取った夏季五輪の金メダル130個のうち、9割近い113個を占めていた。わがバスケットボールは残念ながら「0」で、ボート、カヌー、近代5種、トライアスロン、ハンドボールなどと一緒に最下位にランクされている。会議ではこの種目の関係者は後列に固まって座ってうつむくしかなかったと書かれてあった。

スポーツの人気というのは、ラグビーの突然の盛り上がりが示すように、代表レベルの国際試合での活躍と、それに応じたマスメディアの取り扱いなどが影響される。バスケットボールは10数年前にマンガ「スラムダンク」の流行により、どこのチームも部員が過剰でうれしい悲鳴が聞こえていた。現在はまさにバブル崩壊、どこのチームもプログラムのエンターテインメントを埋めるのに一苦労する時代となってしまった。

新しくスタートした日本バスケットボール協会もバスケットボールの人気復活、地位向上のために色々な方策を模索中である。私たち指導者も年々盛り下がるバスケットボール人気のためにも何かをしなければならない。できることは何か。バスケットボールの素晴らしさを選手たち、保護者達に伝えることである。コーチ同志でバスケットボールの魅力をもっと語り合うべきである。バスケットボールをすることで学んだ大切なことは何かを。

私はいつでも、どこでも「馬好謙強友(バスケット)」のキーワードで話している。

馬・・・馬鹿になって取り組むことで、努力が才能を凌駕する。

好・・・好きこそもの上手なれ。好きなことを自分の強みにすれば叶わぬことはない。

謙・・・夢は大きく態度は謙虚に。世の中は広い。上には上がいる。

強・・・バスケットボールで培った強い心と体で人生のハードルを乗り越える。

友・・・友と共に勝利を喜び、友と共に敗戦の悔しさを分かち。絆は一生続く。